

【目的】高齢女性の配偶者との関係性を夫婦の関係性ステイタス（宇都宮，1996）の観点から類型化し，配偶者との死別に対する態度の特徴を比較検討する。

【方法】(1)調査対象者：広島県在住で自己と配偶者の少なくとも一方が60歳以上か，結婚年数が30年以上の有配偶女性82名。(2)手続き：夫婦の関係性ステイタス評定用SCT（関係性達成型，献身的関係性型，妥協的關係性型，関係性拡散型，表面的関係性型，独立的関係性型のいずれかに評定），配偶者との死別に関するSCT（配偶者の死に対する基本的姿勢，死の順序性とその根拠，自分と配偶者双方の死を想定した際の配偶者に対する言葉掛け）などからなる質問紙調査を実施した。

【結果】(1)配偶者の存在を人格的次元から肯定的に意味づけている関係性達成型は，表面的関係性型と同様に配偶者の死に対する不安や否認を示す傾向が強いにもかかわらず，死の順序性では“夫が先で自分が後”のパターンを希望する者が多くみられた。(2)この順序性を望む背景として，関係性達成型では，妥協的關係性型や関係性拡散型とは対照的に，自分が夫を看取りたいといった意志や，残される者の辛さあるいは生活の不便さを気遣う記述が目立った。(3)死別を想定した際の配偶者に対する言葉掛けでは，自分が先立つ場合と配偶者が先立つ場合とにかかわらず，関係性達成型の，夫婦の情愛性や永続性（「生まれ変わっても一緒」や「あの世で待っています（待っていてください）」など）の得点が最も高く，とくに情愛性では関係性拡散型との差が有意であった。関係性達成型は，配偶者との死別に恐れや悲しみを抱きながらも，配偶者を看取ることの積極的意味や，夫婦人生の統合を模索していることが示唆された。